

# 遺伝子組換え食品の検査

遺伝子組換え食品は、内閣府にある食品安全委員会で安全性に問題ないと判断、承認され、厚生労働省から公表されたものが国内で流通可能になります。

検査は、承認済みのものについては定量検査(食品中に遺伝子組換え体がどのくらい含まれているかを調べる検査)を行います。一方、未承認のものについては定性検査(食品中に遺伝子組換え体が含まれているかを調べる検査)を行います。

今回は、平成24年1月に、各区福祉保健センターが収去した計20検体について、遺伝子組換え食品の定量検査と定性検査を実施しました。

## 1 定量検査

豆腐6検体についてラウンドアップ・レディー・大豆<sup>\*1</sup>を検査しました。その結果、いずれも混入率は5%以下であり、違反検体はありませんでした(表1)。

表1 ラウンドアップ・レディー・大豆の検査結果

品名	原産国	検体数	混入率5%を超える検体数
豆腐	日本	6	0

<sup>\*1</sup> ラウンドアップ・レディー・大豆は、除草剤耐性を持つ大豆の品種で、日本では平成13年に承認されました。承認済みの遺伝子組換え食品は、混入率が5%を超えると表示義務が生じます。そのため、検査では混入率が5%を超えているかどうかを調べます。

## 2 定性検査

米加工品14検体について63Btコメ、NNBtコメ、CpTIコメ<sup>\*2</sup>の定性検査を行いました。その結果、いずれも不検出であり、違反検体はありませんでした(表2)。

表2 63Btコメ、NNBtコメ、CpTIコメの検査結果

品名	原産国	検体数	検出数
麺類	日本	3	0
	タイ	1	0
	台湾	1	0
	ベトナム	1	0
米粉	日本	4	0
ライスペーパー	日本	3	0
せんべい	日本	1	0
計		14	0

<sup>\*2</sup> 63Btコメ、NNBtコメ、CpTIコメは、いずれも害虫抵抗性を持つ米の品種で、日本では未承認であるため輸入・販売等が認められていません。なお、CpTIコメについては、新たに厚生労働省より検査法が示されたことから、今回から検査を開始しました。